

# 見直し案

がん医療に携わる医師等に対する研修事業等の要求の考え方

個々の事業内容は、その進捗状況や定着状況を踏まえて適宜見直すとともに、新たな課題が発生した場合にも対応していくこととしている。

## 見直し案

### ① インターネットを活用した専門医の育成等事業

- ・ 平成22年度にeラーニングシステムの構築を完了し、平成23年度からコンテンツの利用促進等を推進。
- ・ 受講者登録数は約7千人であり、平成24年度のeラーニング延べ利用者数は約3万人である。

**さらなる利用促進を図るため、事業の見直しを検討する。**

※現在、専門医制度の検討が進められており、報告が出た後、関連学会では各種がん専門医等の認定更新に本システムを活用することを検討しており、今後その利用拡大が期待される。

### ② がん患者に対するリハビリテーションに関する研修等事業

- ・ がん患者の療養生活の質の向上を図るため、医療従事者は、がんの知識とリハビリテーション技術の両面に精通することが重要。
- ・ 「がん診療連携拠点病院」に勤務する医療従事者数(医師、看護師、理学療法士及び作業療法士約25万人)に対して、研修修了者は約5千人であり、今後とも本事業を継続していく必要がある。

**近年、受講希望者が増加傾向にあるため、受講者の増加に対応できるよう研修体制の見直しを検討する。**

### ③ がん医療に携わる医師に対する緩和ケア研修等事業

- ・ がんと診断された時から適切に緩和ケアを受け、患者やその家族が最も適した医療を選択できるよう、医師に対する緩和ケア技術の質の向上は重要。  
併せて、国民に対して「緩和ケア」の正しい知識の普及啓発を進めることが必要。
- ・ 「がん診療連携拠点病院」に勤務する医師数(約6万2千人)に対して、医師及び研修を担う指導者の研修修了者は約3万9千人(医師:3万7千人、指導者:2千人)であり、今後とも本事業を継続していく必要がある。

**指導者の養成を進め、研修会の開催を増加させるとともに、未受講者への周知及び研修会の開催形態を検討するなど、医師が参加しやすい研修会を実施し、受講者の拡大を図る。**

### ④ がん医療に携わる医師に対するコミュニケーション技術研修事業

- ・ がん患者が納得したうえで安心してがん医療を受けられるように、医師は患者との十分な医療コミュニケーション技術を身につけることが重要。
- ・ 当面の目標として、「がん診療連携拠点病院」の在籍者として、研修修了者5人を目標としているが必要数2千人に対して、修了者は約700人であり、目標の達成に向けて計画的に研修を実施するとともに、ロールプレイに必要なファシリテーターの養成を図ることが必要。

**未受講者への周知及び研修会の開催形態を検討するなど、医師が参加しやすい研修会を実施し、受講者の拡大を図る。**